

耳鼻咽喉科後期研修プログラム

・目的及び特徴

耳鼻咽喉科は、耳、鼻副鼻腔、口腔、咽頭、気管、食道、頭頸部、音声言語などの広い領域を対照とする。そのため、解剖学、生理学、薬理学、生化学、細菌学、免疫学、病理学などの基礎分野の習得していく必要がある。近年、医療が高度化し、専門分野が細分化されていく傾向にあるが、耳鼻咽喉科については、全ての領域を研修し、広い視野を持った医療が行えるようにすることを目的とする。

・日本耳鼻咽喉科学会認定の耳鼻咽喉科専門医の資格について

○専門性に関する資格の取得条件

- 1) 日本国の医師免許を有する者。
- 2) 連続して3年以上、日本耳鼻咽喉科学会の正会員である者。
- 3) 日本耳鼻咽喉科学会が基準に基づいて認可した耳鼻咽喉科専門医研修施設において、研修カリキュラムに従い臨床研修終了後4年以上の専門領域研修（そのうち3年以上は耳鼻咽喉科専門医研修施設における研修でなければならない。）を修了した者。

上記の3条件に該当した者は、学会に申請を行い、認定審査を受け、専門医になることができる。

一般には6年目に専門医試験を受験することになる。

○専門医試験

専門医認定試験実施要項に基づき以下の審査を行う。

- 1) 日本耳鼻咽喉科学会へ提出された専門医認定申請書、履歴書、医師免許証（写）、認定研修施設における研修修了証明書、臨床記録および研修業績リストに基づき専門医制度委員会において受験資格の有無を審査する。
- 2) 前項の資格審査に合格した者に対して、試験委員会は2日間にわたる筆記試験、小論文、口頭試験の出題と採点を行う。

・研修プログラム

【1年度】

外来： カルテ作成，耳鼻咽喉科疾患一般外来処置，外来一般救急処置，一般

的耳鼻咽喉科診断，耳鼻咽喉科 X 線診断，耳鼻咽喉科領域造影

検査： 音叉検査，純音聴力検査，語音聴力検査，ティンパノメトリー，アブミ骨筋反射，簡易めまい検査，一般的脳神経検査，顔面神経検査

入院： 主治医としての一般医学，めまい・難聴症例，救急治療，悪性腫瘍放射線治療，悪性腫瘍化学治療，ターミナルケア

手術： 外来手術，局所麻酔法，アデノイド手術，扁桃摘出術，鼻茸切除術，上顎洞根本手術，鼻中隔矯正術，気管切開術

【2年度】

外来： CT 読影，細菌検査法，組織検査法，ファイバースコピー，上顎洞穿刺，ベロクタンポン挿入

検査： アレルギー検査，精密聴力検査，シンチグラム，味覚・嗅覚検査，扁桃誘発検査

入院： 鼻出血症例，各種手術症例

手術： 鼓膜切開術，鼓膜換気チューブ留置術，扁桃周囲膿瘍を含む膿瘍切開術

【3年度】

外来： 食道・気管支の硬性直達鏡及びファイバースコピー，特殊耳鼻咽喉科疾患診断

検査： 幼児聴力検査，乳児聴力検査，精密めまい検査

入院： 各種手術症例，各種悪性腫瘍症例

手術： 内視鏡下副鼻腔手術，外頸動脈結紮術，乳突洞削開術，ラリンゴマイクروسার্ジェリー，食道異物摘出術，鼻骨骨折整復術

【4年度】

外来： 言語治療，発声訓練，補聴器装用訓練

検査： 補聴器フィッティング，音声機能検査

入院： 各種手術症例，各種悪性腫瘍症例

手術： 中耳根本手術，前頭洞手術，良性腫瘍摘出術，鼓室形成術，顎下腺摘出術，喉頭截開術，気管支異物摘出術，甲状腺手術，喉頭全摘術，鼻副鼻腔悪性腫瘍手術

上記の項目を達成目標として研修を行う。

手術については、指導医の下で行う年度を示しており、年度を経るにつれて自ら行いうるようになる。その他の助手を適時つとめる。

・耳鼻咽喉科関連施設（*研修教育施設）

大学以外の研修施設として和歌山県全域と南大阪地区に10の関連施設があり、大学を含めて30数名の耳鼻咽喉科医が勤務している。常勤医を派遣している施設は、和歌山労災病院*、紀南総合病院*、国保日高総合病院*、公立那賀病院*、橋本市民病院、野上厚生病院、和歌山済生会病院、海南市民病院、有田市立病院、済生会有田病院で、このほか南和歌山医療センター、町立勝浦温泉病院、古座川病院、新宮市立医療センター、はまゆう病院、阪南市立病院、和泉オリオノ病院に非常勤医を派遣し、外来診療を行っている。